

## feature interview

# DJ HASEBE

なんと2000年の9月号以来となる、DJ HASEBEの貴重な巻頭インタビュー。  
"HONEY DIP mini" の話題を中心に、今までとこれからを語ってもらった。

■ "HONEY DIP mini" が始まりますが、HARLEMがオープンした1997年から2000年までレギュラーでやっていた "HONEY DIP" について、当時のことを軽くお話ししていただけますか？

HARLEMのオープンと同時にスタートさせたパーティーで、特に曜日にこだわっていたわけではなく、たまたま火曜日が空いていたという事で、ワタさん (DJ WATARAI) を誘ってやり始めて。最初はダンサーのお客さんが多かったかな。イベント名を "HONEY DIP" だったのも、まず女の子を楽しませれば男もいっぱい入るんじゃないかなという安易な考えだったんだけど。ちょっと歌モノを多めにしたりとか、あんまりハードコアな方にならないような選曲を中心に、徐々に女の子も結構来てくれるようになったり、HARLEM全体が話題になってたっていうのにも関わって、人も入るようになって、平均5、600人は入っていたよね。とりあえず、身内が集まって、悪い大人が酒飲んでペロペロに酔っばらってるっていう (笑)。身内が喜んで遊んでくれたっていうのが、一番印象に残ってるかな。まず、自分達の周りが一番いいお客さんだから、そんだけ変な大人が楽しんでるのを他のお客さんが見てれば、その人達も楽しく過ごせたと思うし。そういう酒飲みみのパーティーだったっていう感じがかな (笑)。

一番いい時代が一番いい形でできてたんじゃないかなと思いますね。それまでは、アンダーグラウンドなクラブ業界、レコード業界っていうシーンの中だけだったけど、ちょうどそういう活動してたラッパーとかDJたちがメジャーレベルと契約したりとか、メディアに出ることが多くなって、いろんな雑誌とかテレビとかFMっていう部分で露出が多くなっていったっていうのも大きかったんじゃないかな。今までクラブに来てた人達以外の層も巻き込んでいけたって感じが、平日にもかかわらず (笑)。

■ そういうのを敢えて意識しないでやっていたところがうまく重なったんですかね？

そう、特に宣伝とかもなかったし。平日で来づらい曜日だったけど、そこで面白いことが行われてるっていうのが口コミで広がって。メディアとか以上に口コミで広がったっていうのが、一番理想的だった。

■ その間に、色々制作があったり営業があったりしたと思いますが、その中でDJ的にクラブプレイに重きをおくのか、制作と両立するのか、制作の方に比重を置いていくのかなど、いろいろ考えたことなどありますか？

一番何も考えなくてもトントン拍子でいっちゃっていたのが "HONEY DIP" が終了した2000年位だったのかな。そこからシーンの流れ的に凄く変わっていったっていうのもあったし、制作は制作でレールとも契約してたからやってもいいかなって思ったし、クラブはクラブでいるんならどこでやりたいかっていうのもあったし。でも結局いろいろやってきて、今は単純に原点に戻りたいというか、色々枝を広げていった代わり失っていったものを感じるようになったっていうか。いろんなところに力を分散させていったがために一番根本にあるクラブ業界だったりとかアナログ業界だったりとかの自分達のシーンが小さくなってきてるっていうのは感じてきてて、それはイコール自分も小さくなってきてるってことだから、そのパワーをもう一回取り戻さないと、多分手遅れになっちゃうんじゃないかなって思ってた。だから、去年、今年あたりから、制作物はレコードに繋がっていくものに限定していった。例え

ばMIX CD出して、その中にアナログにする音源を入れておいて、その後アナログカットするとか。そのMIX CDを聴いたらクラブに直結するプレイみたいなものがあったりとか、ライブもののMIX CDを出してみたりとか。そういう土台の部分の活動を今年はしていこうかなと、去年あたりからずっと思ってた。その動きの中で、今回のHARLEMの "HONEY DIP mini" は、原点に戻るみたいな意味では凄くいいタイミングだなと思って。原点に戻って、また何も考えずにいい加減にやってみようかなと (笑)。まあ、身内とかが集まりやすい空間っていうのをまずは作ってみるっていうのがいいかなと。

■ メインフロアではなく、3FのBX CAFEっていうのをうまく取り入れつつ？

そうだね。今の時代的にいうと、ああいう感じのことをやるんだしたら、多少規模を小さくしてやるっていうのもいいなと思うし。2Fだと相当責任感もないといけないけど、3Fだと「まあ2Fがあるからいいかな」みたいな (笑) そういう感じでも居られるから。今ってやっぱり、自分も含めてDJがみんな似通ってきちゃってるって思うし、今メディアでアメリカのヒットチャートものとかが流れててコンピとかMIX CDとかがいっぱい出てるけど、アメリカの流行りものだけみたいな感じがするし。提供する側もそういう上掘り下げようとはしないから、みんな煮詰まってる感じがして。新しいものもなかなか出てこないし、みんなそれでいいや的な感じだと思うし。

だから、何かもう一回きっかけになるようなものがあればな。「こういうのもアリだよ」っていうのを、今自分がいいなって音楽を気楽に流していきたくないかな。ヨーロッパとかアメリカでもちょっと出ているけど、もうちょっとクロスオーバー的な選曲とかでもいいと思うし。STRETCH ARMSTRONGとかはたぶんそういう感じを取り入れてると思うけど、ヒットものだけでなくジャンルもHIP HOPだけでなく交えて回してても、HIP HOPのDJが回したらその一晚はHIP HOPっていう枠に入ると思うし。「HONEY DIP mini」を通してもうちょい幅広くやっていけたらいいかな。あと、自分のプレイスタイル的にクロスオーバーな要素って昔からあって、「HONEY DIP」って元々いろんなものかけてたと思うんだよね、他に比べたら。だから、また "HONEY DIP" っていう名前でもいろんなものかけまっせっていう部分もちゃんと入れつつやっていこうかなと。メインフロアだったら、クロスオーバー的にやっていくんだしたら騙し騙しやってかきやダメだけど、3Fはクロスオーバーというか「違うものしかかけませんよ」みたいな感じにもっていこうかなとも思ってるし (笑)。それはもちろん2Fがメインストリームものをかけてるからできることだけど。自分の普段のクロスオーバー的なものより、もっと濃い感じが、聴いてる側が飽きちゃうくらい (笑)。まあ、そんなことしないけど、いい感じにはしていくつもりですけど。

■ 自分がより楽しんでというところに重きを置きつつ、「HONEY DIP」をやっていた頃の当時の雰囲気も交ざっていければという感じですか？

まあHONEY DIPの雰囲気が一番大事。一緒にやるDJ TAKESHI曰く、あの頃のオレとDJ WATARAIはトングってたっていう (笑)。今はまるくなっちゃったってダメみたいに言われるんだけど (笑)。攻撃的というか選曲にしても攻めてたって。何も考えてなかったけど、そう言われてみればそうかなと。やっぱり提供していききたいと思うから、受け身でっていう風になっちゃうとその



空間で何も生まれてこないとかミラクルが起こらないから。感動の瞬間じゃないけど、おかしな瞬間っていうのを生み出していきたいと思う。「HONEY DIP」の時は、自分の定番ルーティーンみたいなのが生まれて、今でも使う定番ルーティーンみたいなものって家で考えたものではなくて、現場で酒飲んで直感で生まれたものだったりするし、その瞬間ってフロアが揺れるくらい盛り上がるから、ああいう感じでもう一回やれたら面白いかなって。

■ 日本語のラップをフロアではかけづらいというのは？

そういうのは前からあるよね。でも、日本語ラップもかけていきたいと思うし。日本は日本で、もう一回独特なものを作っていければいいかなって。アメリカじゃないし、ヨーロッパでもないから。すごくハードコアでアメリカで流行ってるものが、確実に100%日本のフロアで盛り上がるわけでもないし、日本人が日本語ラップで今のアメリカ的な音をやって100%フロアが盛り上がるわけでもないし。だから、もっといろんなものを含めて、もっと日本オリジナルなものを自分なりにやっていけたらいいかなと。プレイも自分の制作物も。今回の "HONEY DIP mini" とかは、はなっから「変わったことをやりまっせ」「当たり前前の選曲はしないよ」って言うておけば、ある程度は何かやっても許してくれるかなって (笑)。まあ、酒を飲みながら色々やっていきたいし、「HONEY DIP mini」で準備をしておいて、メインフロアで "HONEY DIP" をワタさんも含めてドカンとやれたら面白いかなと。その準備的な部分で、皆さん遊びに来て下さい。

■ では、今年かなり動きがある中での、手始めの一つ？

そうですね。もう一回、自分のDJとしてのキャラクターと立ち位置をしっかりと分かりやすく伝えたいって思うから、そういうのも "HONEY DIP mini" で分かりやすくなるのかなって。できる限りギラついていきたいとは思ってます。

■ 今後の予定は？

今年は単純にフロアアイテムになるアナログをいっぱい刷っていきたくないっていうのと、それを自分のプレイに生かせるようなスタイルでクロスオーバー的にDJをやっていければいいかなという感じがですかね。

■ アナログにこだわって？

アナログにこだわるというか、基本的にはアナログだと思ってるし、パフォーマンスだしね。もちろんCDとかも使うけど、レコ箱から取って、見て、かけて、入れてまたかけて、交換してっていうのを全部をひっくるめてパフォーマンスだと思うから。その全てを見てパフォーマンスを楽しんでもらえればいいかなって。

■ 制作の予定は？

自分名義的にはアナログとMIX CDのみ。それは思いついたら作って出しちゃうみたいな感じ。来月もMANHATTAN限定で3,000枚出すし。あとはBRAND NEW HEAVIESの "YOU ARE THE UNIVERSE" のREMIXも。今クリアランスを取ってる最中だから、それがうまくいけば今年中には出せるかな。それをMIX CDにまず入れてみて、その後アナログ切ったりとか。アナログは、日本はもちろんだけど、ヨーロッパとかにも流通させる予定だし、もう一回日本のクラブシーンの、こっちから発信してるんだよっていうのをリスナーとかに伝えるように。日本だけでやっちゃうと、やっぱりどうしてもヨーロッパから入ってくるものだったりアメリカから入ってくるものだったりに比べて小さく見られちゃいがちでしょ。だから日本のクリエイターとかDJとかが作ったものも当たり前のように流通してまよっていう形をきっちり見せられたらいいかなっていう理想があって、それに向けてちょっと頑張ろうかなという感じですね。

■ 読者にメッセージを。

昔はよくHARLEMのシャンパンが全部なくなっちゃって、その後ワインしかないってなって、ワインをボトルでそのまま飲むってこととかあったけど、それに向けてみんな酒を飲みましょう。まあ、身内はとりあえず来たらノルマでシャンパンを1本あけなきゃいけないという (笑)。「HONEY DIP」の時は、月一で酒の日の "SUPER HONEY DIP" っていうのがあったから、「HONEY DIP mini」もとりあえず飲みましょう。オレが絶対シャンパンを1本あけて、ブースに置いて、飲みながらやります (笑)。